
ストラトの音

Hetarist

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ストラトの音

【Nコード】

N3172V

【作者名】

H e t a r i s t

【あらすじ】

白い髪の少年はボロボロのストラトを抱いて瓦礫の山から現れた。

相棒

17年間の人生の中でこんなに後悔したことはあつただろうか。泣き叫びながら逃げ回り、逃げ切つてもなお泣き続けたことはあつただろうか。

「晴翔はるあき、ガキじゃないんだからいつまでも泣くな」

親父は強い人間だ。弱音も愚痴も何一つ口に出したことはない。燃え尽きて灰と化してしまつた家を見たときには「また建て直せばいい」と一言だけ言った。

俺はどうだ？

まるでオモチヤを取り上げられた幼稚園児のように泣き続けるだけだ。相棒を取り上げられて泣き続けるだけだ。何があつても守り抜くと誓つたのに守りきれなかった。

白いストラト。Fenderではなく無名のストラト。それとは知らずに弾いた本物のストラトキヤスターに負けず劣らずの音を出した俺の相棒。

それを俺は業火の中に置き去りにした。

一週間後、戻つた家は灰にすりかわっていた。

町だった灰

それはほんの一週間前の事だった。

巨大な地震が町を襲った。家具がほとんど倒れてしまうほど巨大な地震だった。家は軋み、今にも潰れようとしていた。立っているのは不可能でそばにある物にしがみついているのが精一杯だった。

そして揺れもおさまらないまま、山が火を噴いた。

山は黒煙と火山灰、岩石と溶岩を一気に吐き出した。日中にも関わらず辺りは闇に包まれ、山から飛ばされた岩が家屋を破壊した。溶岩はあつという間に山裾の町に到達し、町は飲み込まれた。噴火に伴う火災は山を焼き尽くし町まで火の海にしてしまった。誰も山を背に悲鳴の中を逃げ回った。

そして俺の町は一夜にして灰になった。

昨日、噴火後初めて自宅に戻った。

俺の自宅だった場所には焼けて何かわからなくなったものが山を作っていた。そこに相棒の存在を示すものはもはや何も残っていないか

った。

一週間前までは確かにあった日常が消え去っていた。

俺は灰の上に伏して泣き叫ぶことしかできなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3172v/>

ストラトの音

2011年10月9日11時17分発行